

「チツソから人材断つ」

水俣病を告発する会 新しい運動起こす

【大阪】五月二十六日のチツソ

いで「チツソから人材を断つ運

運動を広げてゆくという。

株主総会は会社のガードマンによつて水俣病患者の声は押えつけられたが、水俣病を告発する会（全国十一都市）は「今回の総会でチツソの非人間的な体質が公然となつた」として、「一株運動」に次

「動」を起こした。一日、その手はじめとして、チツソに卒業生の就職を世話した大阪市立大学の二教授に公開質問状を郵送した。同会は今後、各大学の就職係の教授名をリストアップ、全国的にこの

質問状を送られたのは同大工学

部応用化学科井本立也教授と大津臨行教授。同学科からは昨年、博士課程卒、修士課程卒、学部卒の三人がチツソに就職している。質問内容は①なぜ教え子を非人

間的な会社へ就職させたか②チツソからの研究費援助を断われ③これまでチツソに就職させた教え子に退職を勧告せよなどの五項目。

これに対して井本教授は「質問状を受け取っていないから」と前置きしながら「確かにチツソに就職したいという学生に推薦状を書いた。教授が学生の就職先を決めるわけではないし、希望によつて推薦しただけ。私が就職希望を

思いとどまらせたり、就職している卒業生に退職勧告するなど、職業選択の自由からいつてとても出来ない話だ」と反論している。

研究費援助については、チツソから今年度六十万円をもらつて研究室の人件費の一部などに行っているほか、十数年前から研究費援助を受けている事実を井本教授は認めた。